

マルコの福音書 1 章 9-13 節 福音宣教のための備え

準備、備えることは重要です。しっかりと専門知識を学び、研鑽を積んだ税理士以外には相談にいかないでしょう。建築を学び、実際に現場での経験を積んだ作業員のいない建築業者を雇うことはないでしょう。私たちは、あらゆる分野のプロフェッショナルに、期待に見合うようなサービスを提供することができるように当然十分な準備がなされていることを求めます。それでは、マルコの福音書で描かれているイエスに、この準備はどのように適用できるでしょうか？イエスは神の御子です。先週見ましたように、マルコは冒頭から、イエスが神であることを明らかにするために、イエスをこのように特定しています。もしイエスが神であるならば、私たちを罪から救うために来られたメシアとして、その御業を行うに十分な資格をお持ちです。しかし、今日、マルコの福音書 1 章 9-13 節で見ると、イエス御自身にも宣教のための準備期間がありました。そして、この宣教の準備の中に、私たちが弟子としてのキリストと歩みの最初の段階の重要性を見ることができます。

まず、マルコの福音書 1 章 9-11 節を読みましょう。 **マルコの福音書 1 章 9-13 節 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。 10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。 11 すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」 12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。 13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。**

すべての福音書がイエスのバプテスマについて述べていますが、ヨハネ書においてはより間接的で、明確ではありません。しかしどの福音書もそれを指摘しているという事実は重要です。イエスがバプテスマを受けたという事実は意義深く、また、バプテスマで起こること、それ自体が極めて重要です。そして、3つの異なる質問に答えることによって、この問題に取り組みたいと思います。イエスについて何を語っているのでしょうか？神の本質について何を語っているのでしょうか？私たちに何について何を語っているのでしょうか？まず、この聖書箇所はイエスについて私たちに何を語っているのでしょうか？ 忘れないでください。マルコはイエスを神の御子として紹介しています。マルコがそれを事実として述べてはいますが、ここでは、神であることが誰の目にも明らかである父なる神が、イエスが実際に神の子であることを公の場で宣言するために語られたのです。福音書の中で、神がイエスに直接応えられたことは3度だけです。主なものは、ここでのバプテスマのときと、変容のときです。この二度とも、父なる神はイエスを御子としてはっきりと呼ばれています。イエスが神の御子であること、すなわち肉体をもって来られた真の神であることを明確に示すことに加えて、マルコがイエスに指し示すもう一つの重要なことがあります。それは、天が "裂かれた" という表現です。先に述べたように、マタイ書もルカ書もこの同じ出来事について記述しています。しかし、どちらの書でも、御霊の降臨することは、天が "イエスのために開かれる" こととして描写されています。

マタイの福音書 3 章 16 節 16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。

この「開け」という表現は、マルコが使っている「天を裂く」という表現よりもずっと柔らかく穏やかです。マルコは、イエスについて何かを強調するために、意図的に異なる言葉を用いています。 **イザヤ書 64 章 1 節** で聖書は言います、 **ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。**

この表現はどうやらこの箇所から来ているようです。また、イザヤ書や旧約聖書の他の箇所でも、天が開けると同じ情景のビジョンが与えられますが、それは常に神による力強い御業を示しており、神が何かまったく想像を絶することを大々的に行われるという思いも与えられているようです。神の力が地上に直接感じられるというこの旧約聖書のビジョンを結びつけることで、私たちはこのイエスという人物と彼が象徴するものに注目せずにはおられません。旧約聖書は、メシアの到来を何度も何度も預言してきました。今、神はこの力強い方法で、イエスを通して神が重要な御業を行われていることを皆に知らせました。言い換えれば、このイエスという人

がメシアであることを示すもう一つのしるしだと私は受け止めます。彼は他の誰ともまったく違います。神は彼を通して救いをもたらそうとされています。なぜイエスが他の誰とも違っているのか、それはこの物語が神の本質について私たちに何を教えているのか、という第二の問いにつながります。イエスが神の子であるということについて、先週述べたことをすべて繰り返すつもりはありませんが、イエスを神の御子と呼ぶということは、イエス御自身を神と呼んでいるということであることを覚えておいてください。だから、もし明らかに神の御子がそこにおられて、天からの声が「私の愛する子」とイエスを直接呼んでいるのだとしたら、神が2つの異なる位格として同時に存在しているという興味深いダイナミズムがそこにあります。しかし、そこにもう一人の位格も存在しています。

10節 **御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。**

イエスのバプテスマは、聖書の中で、私たちが三位一体の神と呼ぶにおいて神が御自身を啓示されている最も明確な場所の一つです。この言葉、三位一体、は聖書には決して出てきませんが、神学者たちが神の存在の本質について聖書に書かれていることを説明するために見つけた最良の方法です。先週私が指摘したように、神の御子であるということは、ヨハネによる福音書1章にあるように、イエスが神であるということです。ヨハネによる福音書1章1節はその点を極めて明確にしています。**ヨハネの福音書1章1節 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。**

スクリーン上の図形が示すように、イエスは神です。しかし、天から御父の声が聞こえており、御父もまた神なのです。そして、神の御霊、聖霊は、決して聞こえる声では語られませんが、福音書記者が言うに鳩のように見える何らかの方法で降ってくるのです。つまり、聖霊は神なのです。父なる神は子なる神でも聖霊なる神でもない。しかし、その三位格はここでは同時に現れており、父なる神は子なる神でも聖霊なる神でもなく、同じことが御子と聖霊にも言えます。私たちの頭ではこの真理を理解できません。また、実際この存在を説明する言葉もありません。そこで歴史的に、私たちの神は唯一の神でありながら、この聖書の真理を説明するために3つの異なる位格として存在するという、TRINITY（三位一体）という言葉を考え出したのです。

しかし、イエスのバプテスマという出来事について、私たちが問うべき3つの問いがあると言ったことを思い出してください。三つ目の質問は、イエスのバプテスマは私たちについて何を語っているのか、というものです。それに対する最初の、そして最も明白な答えは、イエス御自身がバプテスマに服したのであれば、私たちもイエスに従う者であるならば、それに倣うべきであるということです。実際、新約聖書全体を通して、特に教会が始まり発展拡大していく使徒の働きの手紙では、救いのメッセージはバプテスマと結びついています。聖書は、私たちがイエス・キリストを信仰することによる恵みによって救われることを明らかにしています。**エペソ人への手紙2章8~9節 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。9行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。**

ですから救いは、バプテスマも含めて、あなた自身の行為や働きに基づくものではないのです。しかし、**使徒の働き2章38節**ではこう言っています **38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。**

これはエペソ2章と矛盾するものではありません。むしろ、私たちが本当に罪を悔い改めてキリストに従ったなら、バプテスマを受けるということを示しているのです。死ぬ直前にイエスを主であり救い主であると信じた十字架上の強盗のような例外は明らかに存在しますが、新約聖書は、キリストに従う者の通常のパターンはバプテスマを受けることであると明言しています。もう少し踏み込んで言うと、バプテスマは救いの次に続くものであることも明らかです。ですから、イエス・キリストに従う信者となることによって真に信仰共同体の一員となる前の赤ん坊にバプテスマを授けることはありません。明確な信仰告白があり、キリストの信者であることを言葉と行動で示した場合にのみ、私たちは誰にでもバプテスマを授けることに同意します。私は、子供が親の指導なしに自分一人ではっきりと、自分が罪人であることを知り、キリストに信仰を置くという証しを分かち合うことができるようになるまでは、バプテスマを授けることをためら

います。キリストに従った形跡をまったく見せない多くの大人が、自分の救いに偽りの保証を与えるバプテスマを信頼しているのです。バプテスマの儀式を執り行う前に、悔い改めと信仰が在ることを確認するために、(大人と同様に) 子供に対しても注意しなければなりません。また、このバプテスマが私たちにどのように適用されるかについては、第二の答えがあります。それはバプテスマの様式です。

聖書がこう言っていることに注目してください。**水の中から上がるとすぐに** 水に潜っているから水から上がるのです。これは、水に完全に浸かることによるバプテスマ、浸礼です。ギリシア語の "baptizo" は水に浸すという意味ですが、ここで使われている表現からも、これらのバプテスマが完全に水に浸すことによって行われたことがわかります。ここでは、少しわかりにくいかもしれませんが、しかし、イエスのバプテスマは私たちに何を示しているのかという問いに対する第三の答えがまだあります。それが重要なのは、これから見る最後の2節と、先に読んだ使徒の働き2章38節と結びついているからです。使徒の働き2章38節言っています。**賜物として聖霊を受けます。**

ここで使われている言葉について、英語、あるいは日本語でも、明確でない点を指摘したいと思います。10節に戻ると、**御霊が鳩のようにご自分に降って来る**とあります。

さて、これはマタイ書とルカ書に見られるのと同じ表現ですが、原文の言葉の実際に起こっていることの伝達を曖昧にしています。マタイ書とルカ書にある言葉は、実はほとんどいつも"の上に"と訳されている言葉なのです。しかしマルコ書では、使われている単語は主に"に"と訳されており、"の上に"とは訳されていません。つまり、マルコ書はここで、イエス・キリストと聖霊の関係を強める別の言葉を実際に使っているのです。これはマルコの福音書において、聖霊がイエスを宣教のために完全に満たしていることを強調しているように思えます。

私たちにどのように適用されるでしょうか。**コリント人への手紙第一 12章 13節**は私たちのための聖霊によるバプテスマを言い表しています。**13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。**そして、**エペソ人への手紙 5章 18節**むしろ、**御霊に満たされなさい。** クリスマンにとって、水のバプテスマは、救いととともに聖霊のバプテスマが起こり、同時に私たちを宣教のための力を与えられる聖霊が内住されたことを意味します。これはイエスのバプテスマに描かれています。

聖霊は私たちを導き、宣教のために力を与えてくださるのですから、聖霊がどのようにイエスに内在したかについての事実を示してくれるは今日の私たちにとり重要です。12-13節に進むと、イエスにこのようなことが起こります。**12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの試みを受けられた。イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。**

イエスのバプテスマの直後には、イエスのバプテスマに現れた神の栄光をゆっくりと味わう時間はありませんでした。さて、このように、一つの出来事から次の出来事へと非常に速く進むのがマルコのスタイルですが、他の二つの記述においても、イエスはバプテスマ体験の後、休む暇がないようでした。聖霊なる神は、宣教のために聖別されたイエスをすぐに導きました。イエスにとっても、私たちにとっても、この聖霊の満たしがとても重要なのはこのためです。キリストに従う私たちは、キリストの霊である聖霊に導かれています。もし私たちに聖霊の内住がなく、聖霊に導かれていないなら、私たちは真の意味でイエスに従う者ではありません。**ローマ人への手紙 8章 14節 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです**

御霊がイエスをどこに導いたかを見ることも重要です。それは、サタン自身による意図的な誘惑でした。誘惑の詳細はここでは触れませんが、詳しく記述されているルカ書やマタイ書をお読みください。しかし、イエスが誘惑に直面したことを知っておくことは重要です。私たちの多くを誘惑に陥れるためにサタン自身がじかに私たちに立ち向かう必要もないでしょう。サタン自身には彼自身が誘惑すべきより強い信仰に立つクリスマンがいるはずで、私ごときが罪に陥るように仕向けるためには、悪魔の中でさほど強くえらくもない悪魔を送り込んで誘惑するだけでいいのでしょうか。しかし、イエスはサタン自身に立ち向かい、罪の誘惑に屈しませんでした。罪の誘惑がなければ、イエスは本当に人として在ることができたでしょうか？できません。イエスが真

に人間的な存在であるためには、私たちが経験するであろう罪以外のすべてを経験しなければならなかったのです。 **ヘブル人への手紙 4章 15節**はイエスについてこう述べています。

15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

しかし、マルコによるサタンによるイエスの誘惑の記述に見られる素晴らしい真理は、13節の最後の行にあります。 **イエスは野の獣とともにおられ、御使いたちが仕えていた。**

ここで何が起こっていたかを示すもう一つの箇所を一緒に見てみましょう。 **コリント人への手紙 第一 10章 13節 13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。**

イエスは、聖霊の力によって、サタンから受けた最悪の誘惑の攻撃に耐えることができました。そして、この間、父なる神は決してイエスから離れませんでした。人の目からは、動物だけに囲まれた荒涼とした孤独な体験であったため、そのように感じたかもしれません。それが何を意味するかははっきりとはわかりませんが、父なる神はイエスを常に守るために御使いたちを遣わされていたようです。

詩篇 91篇 11-12節 11 主があなたのために御使いたちに命じてあなたのすべての道であなたを守られるからだ。 12 彼らはその両手にあなたをのせあなたの足が石に打ち当たらないようにする。

誘惑から逃れる道は必ずあります。ヤコブの手紙 4章 7節が言うように、神に信頼し、あなたが逃れることができるように聖霊に頼ることで。

ヤコブの手紙 4章 7節 7 ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

これが、イエスがメシアとしての宣教に必要な備えのすべてです。バプテスマを受け、誘惑を受けることによって、イエスの人間性が証明されました。イエスの人間性が証明されれば、マルコによる福音書の残りの部分は、イエスの神性、すなわちイエスが神であるという事実、それゆえイエスがメシアであり得る理由を証明することができます。イエスは自分の罪が洗い流されたことを示すためにバプテスマを受ける必要があったのでしょうか？全くありません。イエスには洗い流さなければいけない罪など決してありませんでした。私たちのように神との交わりを絶たれることもありませんでした。しかし彼は、キリストに従う私たちすべてが取らなければならないこのステップの重要性を、私たちに示してくれました。イエスは誘惑に身を委ねなければならなかったのでしょうか？やはり、NOです。しかし、そうすることによって、キリストに従う者として私たちが直面するのと同じことに直面されたのでした。ただし、イエスは罪を犯すことなく完璧にそれを果たされました。私たちはどうでしょうか。聖霊の力、満たし、力づけなくしては自分たちには不可能です。私たちに残された疑問は、もしキリストを知っているなら、私たちは聖霊に頼っているのでしょうか、ということです。そして、もし私たちがバプテスマという最初のステップに従順でないなら、聖霊の導きに従順であるはずがないでしょう。もしあなたがまだバプテスマを受けていないのであれば、ぜひ今日私と話しましょう。バプテスマの意味と必要性について話し合しましょう。

バプテスマの恩恵の一つは、主の晩餐によって示されるキリストのからだへの参加です。イエス・キリストを主として、救い主として受け入れ、バプテスマに従順であったすべての人は、今日、この食事を共になさるよう招かれています。親御さんの皆さんは、子供たちにこの食事の大切さを教えるために、準備ができていない場合は参加させないようになさってください。もしここにおられる方で、キリストを受け入れていない、あるいはバプテスマを受けていない方々は、この食事に参加することを控えていただくようお願いします。

私が祈った後に執事が礼拝堂の四隅でパンと杯をお配りします。みなで一緒に聖餐に与ります。祈りましょう。

Mark 1:9-13 Preparation for Ministry

Preparation is important! You would not go to a tax preparer who had not spent time preparing and learning that profession. You would not hire a construction company that had workers who had never actually spent time preparing and learning that trade. We expect professionals in pretty much every area to go through a time of preparation in order to be able to offer those services. Now, how does this apply to Jesus as he is revealed here in Mark? Jesus is the Son of God. From the very beginning of the book, as we saw last week, Mark has identified him in this way to show that he is God. If Jesus is God, then he is fully qualified for his ministry as the Messiah, the one who came to save us from sin. And yet, as we will see today in **Mark 1:9-13**, **Jesus himself had a period of preparation for ministry**. And in this preparation for ministry we see the significance of the first steps we take in our walk with Christ as disciples.

Let's begin by reading verses 9-11 in Mark 1. **9 In those days Jesus came from Nazareth of Galilee and was baptized by John in the Jordan. 10 And when he came up out of the water, immediately he saw the heavens being torn open and the Spirit descending on him like a dove. 11 And a voice came from heaven, "You are my beloved Son; with you I am well pleased."** All of the gospels speak about Jesus's baptism although in John it is definitely more indirect and less clear. The fact that every gospel points to it is significant. That fact that Jesus underwent baptism is significant. And what happens at the baptism itself is extremely significant. And I want to address it by answering 3 different questions. What does it say about Jesus? What does it say about the nature of God? What does it say about us? **First, what does this passage tell us about Jesus?** Remember, Mark introduces him as the Son of God. It is one thing for Mark to state that as fact, but here, we see God the Father, who would have clearly been understood to be God, speaking in a public way to declare that Jesus is in fact, his Son. There are only 3 times where God directly responds to Jesus in the gospels. The two primary ones are here at his baptism, and at the transfiguration. Both times, God the Father clearly addresses Jesus as Son. In addition to being clearly identified as the Son of God showing that he is Deity, truly God come in the flesh, there is a second significant thing that Mark points us to in Jesus. It's in the wording of the Heavens being "torn open." As I mentioned earlier, Matthew and Luke both give descriptions of this same event. But in both books, the Spirit descending is described as the Heavens being "opened to him" (**Matthew 3:16 for wording**). That wording of "opening" is a much softer than the wording Mark uses of tearing or rending the heavens. Mark is intentionally using the different word to highlight something about Jesus. In **Isaiah 64:1 the Bible says, Oh that you would rend the heavens and come down, that the mountains might quake at your presence—** This seems to be where the wording comes from. And in Isaiah and other places in the Old Testament where this same idea of the heavens tearing is seen, it is always showing a powerful demonstration by God and seems to also carry the idea that God is doing something different and in a big way. By tying in this Old Testament vision of God's power being directly felt on earth, we cannot help but take notice of this man Jesus and what he represents. The Old Testament has prophesied over and over again that a Messiah was coming. Now, God in this powerful way has signaled to everyone that through Jesus, God is doing a significant work. In other words, I would take this as another sign that this man Jesus is the Messiah. He is unlike anyone else, and God is going to bring salvation through him.

Why he is unlike anyone else, leads to our second question, **what does this story teach us about the nature of God.** I won't repeat everything I said about Jesus being the Son of God that I said last week, but remember that by calling Jesus the Son of God, he is being referred to as God himself. So if we clearly have the Son of God, then we have a voice from Heaven calling him directly, "my beloved son," then we have an interesting dynamic of God being present as two distinct persons at the same time. But then there is a third person present as well. Verse 10 says, "**the Spirit descending on him like a dove.**" The Baptism of Jesus is one of the clearest places in Scripture that we see God reveal himself in what we call the Trinity. You will never find that term in the Bible, but it is the best way that theologians have found to describe what we see in the Bible regarding the nature of God's existence. As I spent time pointing out last week, to be the Son of God means that Jesus is God as John 1 makes abundantly clear when it says in **John 1:1, In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God.** So as **our diagram on the screen points out,** Jesus IS God. But clearly there is a voice from Heaven speaking as Father, so God IS also Father. And while never speaking in an audible voice, the Spirit of God, the Holy Spirit descends in some way that the gospel writers say looks like a Dove. So the Holy Spirit IS God. But they are all equally present at the same time so God the Father is NOT God the Son or God the Holy Spirit, and the same goes for both the Son and the Spirit. Our minds cannot comprehend this truth, nor are there really words to explain this existence. So, historically we have come up with the term TRINITY to explain this Biblical truth that our God is ONE God who exists as THREE distinct persons.

But remember, I said there were three questions we should ask of this event, the baptism of Jesus. **The third question is, what does Jesus's baptism say about us?** The *first and most obvious answer* to that is that if Jesus himself submitted to baptism then so should we if we are his followers. In fact, throughout the New Testament, especially the book of Acts as the church begins and expands, the message of salvation is connected with baptism. The Bible is clear that we are saved by grace through faith in Jesus Christ. **Ephesians 2:8-9 says, 8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast.** So salvation is not based on any act or work on your part, including baptism... But, in **Acts 2:38 we read, "And Peter said to them, "Repent and be baptized every one of you in the name of Jesus Christ for the forgiveness of your sins, and you will receive the gift of the Holy Spirit."** This is not contradicting Ephesians 2. Instead it is showing that if we have truly repented of our sins and followed Christ, we will be baptized. While there are clearly exceptions like the thief on the cross who believed in Jesus as Lord and Savior right before he died, the New Testament is clear that the normal pattern for those who follow Christ is to be baptized. I will take this a bit further, and say that it is also clear that baptism follows salvation, so we don't baptize babies into the community of faith before they are truly part of that community by being a follower of Jesus Christ. It is only upon a clear profession of faith and having demonstrated by words and actions that they are a follower of Christ that we would agree to baptize anyone. I am hesitant to baptize a child until they can clearly and on their own with no parent guidance share a clear testimony of knowing they are a sinner and putting their faith in Christ. Too many adults who show no signs of following Christ at all, are trusting in a baptism that gives them false assurance of their salvation, so we have to be careful with children (as well as adults) to make sure repentance and faith is present before we administer the ordinance of baptism.

There is also a *second answer* to how this baptism applies to us, and that is in the mode of baptism. Notice that the Bible says, “**when he came up out of the water**…” You come up out of the water by being under the water. This is baptism by the full immersion of an individual in water. The Greek word “baptizo” means to dip in water, but even the wording used here shows that the way these baptisms were done was by full immersion. But there is *still a third answer* to what does Jesus’s baptism show to us, and perhaps it’s a little harder to see here. It is important, because it is tied to the last 2 verses we will look at and to Acts 2:38 that we read earlier. In **Acts 2:38**, it says, “**you will receive the gift of the Holy Spirit.**” I want to point out something about the language used here that is not clear in English (or in Japanese I think). Going back to verse 10, we are told, **the Spirit descending on him like a dove**… Now, this is the same wording you will find in Matthew and Luke, but it obscures what is really happening in the original language of the text. The word in Matthew and Luke is actually the word that is nearly always translated “on”… But in Mark, the word used is primarily translated as “into” and not “on”. So, it is unique that Mark actually uses here a different word that intensifies the relationship between Jesus Christ and the Holy Spirit. This would seem to emphasize for us in Mark’s gospel how the Spirit completely fills Jesus for ministry. How is that applicable to us? **1 Corinthians 12:13** describes for us a baptism by the Holy Spirit. **13 For in one Spirit we were all baptized into one body—Jews or Greeks, slaves or free—and all were made to drink of one Spirit.** And **Ephesians 5:18** tells us to “**…be filled with the Spirit**…” For the Christian, the water baptism signifies the fact that a Spirit baptism has happened with salvation, at which time we are indwelt by the Holy Spirit who then empowers us for ministry. This is pictured for us in Jesus’s baptism.

Giving us this fact about the Holy Spirit and how he seemed to indwell Jesus and today us is important, because it is the Holy Spirit who guides us and empowers us for ministry. And this is what happens with Jesus when we continue into verses 12-13. **12 The Spirit immediately drove him out into the wilderness. 13 And he was in the wilderness forty days, being tempted by Satan. And he was with the wild animals, and the angels were ministering to him.** Right after the baptism of Jesus, there is no time to really slow down and savor God’s glory that displays itself in Jesus’ baptism. Now, this is Mark’s style to move very quickly from the from one event to the next, but in the other two accounts as well, it does seem that Jesus has no time to rest after the baptism experience. God the Holy Spirit immediately leads him to go right into the ministry he has been set apart for. This is why this filling of the Holy Spirit is so important for Jesus and for us. We as followers of Christ are led by the Spirit of Christ, the Holy Spirit. If we are not indwelt and led by the Spirit, we are not truly followers of Jesus. **Romans 8:14** says, **14 For all who are led by the Spirit of God are sons of God.**

It's also important to see where the Spirit led Jesus. It was to intentional temptation by Satan himself. Now, we won't go into the details of the temptation that you can read in more detail in Luke and Matthew, but it is important to know that Jesus faced temptation. For most of us, I assume, we don't need Satan himself to come against us in order to fall to temptation. I'm sure that Satan himself has much stronger Christians to tempt and only needs to send his least important demon to tempt me in order to get me to fall into sin. But Jesus faced Satan himself and did not give in to the temptation to sin. Without a real temptation to sin, could Jesus have even been really human? He could not. He had to experience everything we would experience except sin in order to

have a truly human existence. [Hebrews 4:15](#) tells us this about Jesus. For we do not have a high priest [that's Jesus] who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin. But the wonderful truth that we see in Mark's account of the temptation of Jesus by Satan is in that last line of verse 13, **And he was with the wild animals, and the angels were ministering to him.** Look with me at one other passage that shows us what was happening here. [1Corinthians 10:13](#) **13 No temptation has overtaken you that is not common to man. God is faithful, and he will not let you be tempted beyond your ability, but with the temptation he will also provide the way of escape, that you may be able to endure it.** For Jesus, he was able to endure the worst temptations that Satan could throw at him through the power of the Holy Spirit. And God never left him during this time, although from a human perspective it may have felt that way, given the desolate lonely nature of the experience, surrounded only by animals. Although it is not entirely clear what it means, it seems that God the Father had angels protecting him all the time. [Psalm 91:11-12](#) tells us, **For he will command his angels concerning you to guard you in all your ways. 12 On their hands they will bear you up, lest you strike your foot against a stone.** There is always a way of escape from temptation. Trusting in God and relying on the Holy Spirit to enable you to as [James 4:7](#) puts it, **7 Submit yourselves, then, to God. Resist the devil, and he will flee from you.**

This is all the preparation Jesus needed for his ministry of being the Messiah. This proved his humanity by submitting to baptism and to temptation. Once his humanity is proved, then the rest of the book of Mark can prove his Deity, the fact that he is God, and therefore why he can be the Messiah. Did Jesus need to submit to baptism to show that his sins were washed away? Absolutely not, he had no sin that ever had to be washed away, and he was never out of fellowship with God like we are. But he demonstrated for us the significance of this step that all of us who are followers of Christ must take. Did he have to submit himself to temptation? Again, no, but by doing so, it showed that he faced the same things we will face as followers of Christ. Except he did it perfectly with no sin. Will we? Not on our own, not without the power of the Holy Spirit filling us and leading us and empowering us. The question that leaves us with is, "are we relying on the Holy Spirit if we know Christ." And if we haven't been obedient to that first step of baptism, then there is no way that we are being obedient to the leading of the Holy Spirit. If you haven't been baptized then come talk to me today, and let's discuss the meaning and necessity of baptism.

One of the benefits of baptism is participation in the Body of Christ as demonstrated by the Lord's Supper. All of those who have accepted Jesus Christ as Lord and Savior and have been obedient in baptism are invited to share in this meal today. Parents, you teach your children the importance of this meal by not allowing them to participate if they are not ready. If you are here and have not accepted Christ or been baptized, then I would ask you to refrain from joining in this meal. After I pray, the Deacons will serve the bread and juice from the 4 corners of the sanctuary, and we will eat and drink all together. Let's pray.